



超道徳とみ教え

先日、浄土真宗の若い住職が殺人を犯すという事件が起きました。我々僧侶にとって同じ立場にある者が何らかの事件に関与して世間を賑わすということはまことに悲しいことです。まして同じ浄土真宗に籍を置く者が起こした今回の事件には、あらためて親鸞聖人のみ教えに問い直さずにはおれませんでした。

* * *

親鸞聖人のみ教えの根幹に「悪人正機」があることはあまりにも有名です。この教えは絶対他力のお念仏のみ教えにとって揺るがすことのできない重要なものです。しかし「善も要にあらず」とか、「悪もおそるべからず」という言葉だけを断片的に切りはなして、善いことをしなくてもよい、悪いことをしても許されるなどと誤解する者が出て混乱を生んだことを嘆いて書かれたのが、永遠のベストセラーといわれる「歎異抄」です。その中には、聖人が著者である唯円に、誤解されやすい「悪人正機」について、信心と人を殺めるといふ両極の行為に例えて説かれたことが書き残されています。

「私の言葉を何でも信じ、言う通りにできるか」という聖人の問いかけに、唯円は「もちろんです」と答えます。「では、まず

千人を殺してみよ。そうすれば浄土往生間違いなしと言えよできるか」と問うと、唯円は「私には千人どころか、一人でも殺すことはできそうにありません」としか答えられません。そこで聖人は、「教えを信じこの親鸞のいうことに絶対に従うといってもできないことがわかったであろう。何事も自分の意思で事が成るとしたら、千人を殺さないと救われたいと言われれば本当に殺せるかもしれない。しかしあなたにそれができないのは心が善いからではない。なぜなら人は逆に何らかの状況においては苦もなく千人を殺すこともあるのだよ。阿弥陀さまはその人間の性を知り尽くして、善悪のかかわりなくすべてを救うと誓って下さった。このことを決して間違わないように」と厳しく説いておられます。そして、「毒を治療する薬があるからといって、わざわざ好んで毒を飲むものではない」と強くたしなめられ、誤った解釈をする危なさを厳しく正しておられます。

* * *

仏の智慧の前では、善人は虚像であり、悪人は実像であるといえるでしょう。これは、たまたま善が行えたのも、うまく因縁が結ばれたからであり、悪をやらないでおこうと欲していても、煩惱の炎の燃え盛りによって

悪に走り痛み苦しむ結果になってしまうという事実です。

道徳は、この世のものを善いと悪いとの分別にとらえ、人間の努力によって善の満ち溢れた世の中が成し得るという考えが基本です。しかし、この考えにとられるのも煩惱です。善をなすことで自分を飾り、仏も周りの人々もこれを賞賛するに違いない、自分は特別だと思いたい。そのことは、悪の影を持つ自分自身には目を背け、悪とされるものを憎み嫌い、知らず知らずのうちに差別する心を生み、職業の貴賤さえもつようになってしまう。そしてその不実さを覆い隠そうとして、ますます善人賢人として外を装わざるをえなくなるのです。

宗教は道徳（法律）を超えて、道徳によって解決されない人生を解決するものです。かといって道徳に背き反するものではありません。正しい信心に依って深い立場から道徳を活かすものなのです。

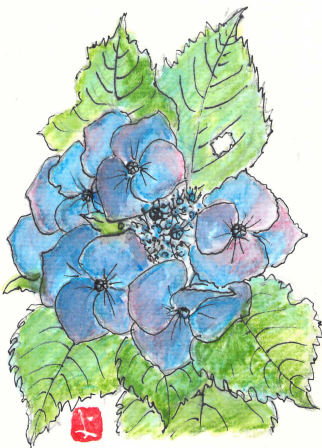
地域のお寺の子として、善い子、賢い子と言われてきた人間が殺人者になってしまうのです。今こそ親鸞聖人のみ教えを自分勝手ではなく深くしっかりと味わってくださることを願わずにはおれません。それはまた、縁があれば何をすかわからない私にも問われていることなのです。 合掌

奏庵法座

日時
6月26日(金)
午前11時より

「真宗宗歌」
正信偈
法話
住職
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

垣根からあふれた紫陽花に
シトシトと降りそそぐ雨…、
心に刷り込まれたそんな風情
に出逢うと梅雨もまた楽しで
す。雨が続けば晴れを待ち、
日照りが続けば雨がありがたい、
時に厳しく時に優しく思
う通りにならない自然ですが、
私たちは多くのいのちの恵み
を得、学び、生かされていま
す。仏教徒にとってこの季節
は、外での修行をせずに勉強
する安居の時期です。
どうぞお参り下さい。



お盆について

「仏(亡き人)は、合わせ 手のなかに還ってくる」

お盆といえばお墓まいりに
結びつける人がほとんどです
が、お墓の前でしか亡き人を
偲べないというのは寂しいこ
とです。立派なビルの納骨堂の
コマーシャルに、「おじいちゃ
ん、お参りに来てあげたから
よろこんでくれたかなあ」とい
う言葉が流れますが、お念仏
のみ教えのお味わいでは、今
生かされている私たちがよろこ
ばせていただいてこそ意義ある
仏事となるのです。

浄土真宗のすべての仏事は、
生かされている私が仏の教えに
遇う仏縁として勤めさせていた
だきます。仏教習慣は、いつも
は日暮しに追われて忘れがちな
仏法にふれるようにと願って
守り伝えられてきたものであり、
その尊いご縁となって下さる
のが仏となられた方々です。

亡き人が喜んで下さるのは、
大切な家族や有縁の人々が、
自分の死を縁にして正しいお念
仏のみ教えにふれ親しんで、迷
わず人生を送ってくれることな
のです。

日本各地の習慣が混ざるこ
の地域では、7月8月の両月
お盆参りをさせていただいて
おります。お参りをご希望のご
家庭、初盆などで時間の指定
をご希望の際は、できるだけ
早くご依頼下さいますようお願い
いたします。また、ご遺骨を
お預けの方、故郷が遠く仏様
に向かえない方はいつでも奏
庵にお参り下さい。

編集後記

やたら多い「日本を褒める」の類。近頃では卑屈さすら感じ、これを編集後記にしようと考えていたら、朝日の朝刊に(16日)「日本ほめ」の快感という掲載があり、皆んなも「この風潮」に疲れてきたのだと少し安心(?)した。■外貨獲得の目玉外国人観光客誘致も、増えてきたとはいえ韓国に水を開けられている。世界中の人が完全なハブ空港ができていた韓国経路を利用するようになってすでに30年以上になる。格安で便利な空路を利用して毎年のように訪日する日本人の血に誇りを持つ日系の友人でさえ、中国や韓国と比べて日本でのコミュニケーションの不自由さを残念がる。■「空白の20年」はバブル崩壊以降の停滞をいうのではなく、それはバブルに浮かれていた時代から始まっていた。バブル崩壊後、大手証券会社、都市銀、大手家電などが次々と姿を消したが、その当事者たちはこう告白している。派手な広告やイベントを企業努力と思ってやっていたが、思えば内向きのポーズに過ぎなかった。不覚にもというより恥づかしながら、その間に韓国や中国があんなに成長してきていることを知らなかった。何より辛かったのは日本中に見られた自社の看板がひとつまたひとつと消えていくことだった…。■日本人は絶頂でも絶不調でも内向きで、いつも隣近所しか見ていない。日本褒めも内向きが極まった現象とも言え、近視眼的で、将来的な転換から遠のく結果を生むことになっているのではと案じる。この影響は経済だけではない。昨今の国政、社会現象、犯罪傾向も、対象は「隣り近所」で、その思い込みが行為となって暴走しているように思えてならない。■真の自信とは、他と比べたり、自分より弱いものを見下して軽んじたり、同レベルの価値観の中で得心したり惑わされたりしているかぎり決して培われないものだと思う。独りよがりはえてしてカッコ悪いものだ。それは現実を見る目を曇らせ、まず現実(負)を受け入れることから生まれてく力、謙虚さを失わせている。

Norimaru